

令和4年度 新規採用職員インストラクター研修会

南予教育事務所
R4.9.14(水)発行

新規採用職員インストラクターの役割を理解し、新規採用事務職員の育成・指導に必要な資質を養うこと等を目的として、標記研修会を6月16日(木)に南予地方局第1会議室にて実施しました。

研修会の概要・様子等は、次のとおりです。

I 研修 I (13:20~14:30)

「新規採用事務職員の育成について」

新規採用職員インストラクターの役割は、「仕事を教える」ことと、「心に寄り添う」ことである。「心に寄り添い、成長を促せるインストラクターになろう!!」という内容で、南予教育事務所次長より講話が行われました。

- (1) 新規採用職員インストラクターの役割
(新規採用職員インストラクターの任務・心構え等)
- (2) メンター制度の理解
- (3) モチベーションを高めるには?
- (4) 傾聴の効果
- (5) 相手が話したくなる七つの聴き方



【受講者の声】

○具体的な業務について正しく教えるためには、私自身がしっかりとその業務について理解しておかなければならない。

○「具体的な業務の指導、相談に応じ指導助言を行う」という真の任務に重責を感じています。

○講話の中で「正しい知識・新しい情報を教えてあげてください。」という言葉が印象に残った。

○一人一人が異なる特性を持っていることを理解した上で、個に合った接し方を意識しておくことが大切である。

○全てを細かく指示するのではなく、自分で考えて行動できるような方法で教えていきたい。

○本人に考えさせ行動させることで成長を促すという関わり方は、目から鱗が落ちた気持ちでした。

○相手が相談しやすい環境や雰囲気をつくり、信頼関係を築くことから始めようと思う。

○業務上の誤りは、この先必ず起こる。新規採用職員を責めず、ラポールを保ちつつ、同じ間違いを繰り返さないよう指導助言していきたい。

○普段から本人の能力を認めて、「信頼している」「組織に必要な存在である」ことをしっかりと伝え励ましたい。また、本人が自分で判断し決めたことで得られる成功体験を十分に感じさせたい。

○自分には否定してしまう傾向があるため、まずは相手の話を傾聴し、会話の中で新規採用職員が自分の誤りに気付けるような促し方を考えていきたい。



2 研修Ⅱ (14:30~15:15)

「傾聴の実践」

経験豊富な事務係長(又は専門員)と自分自身にも不安を抱える主事のペアで傾聴を重視した面接を行いました。

ルールはたった一つ。インストラクター役は、自分の話をしないこと。研修Ⅰで学んだ「相手が話したくなる7つの聴き方」を上手に活用し、相手の気持ちを引き出す聴き方の練習を行いました。

【受講者の声】

園 今回の研修で学んだ傾聴は、新規採用職員に対してだけでなく、すべての人に対して有効なコミュニケーションの方法だと感じた。

園 「相手が話したくなる七つの聴き方」を意識的に行い、まずは、自分自身の傾聴力を高めていこうと思う。

園 実際に2人1組の面接を実践したが、話を引き出すことの難しさも分かり、自分自身も成長していかないといけないということ学んだ。

園 傾聴を実践することで、どのようにしたら良いのか、どのように質問してもらおうと話しやすいかが理解できた。

3 研修Ⅲ (15:30~16:40)

「インストラクター座談会」

4~5人の3つの班に分かれて、研修計画や研修内容、効果的な指導方法等について意見を交換しました。指導上のちょっとした工夫について情報交換でき、次につながる話合いになりました。

【受講者の声】

園 インストラクター同士で情報交換し、今後の育成に生かせるヒントを得ることができ、充実した時間になりました。



新規採用職員研修と同じ日に開催したことで、次のような声もありました。

【受講者の声】

園 新規採用職員同士が笑顔で話す様子を見ることができ、安心した。

園 これから様々なことを吸収して成長していく若手事務職員の初々しい姿を見て、育成する側の責任を重く感じた。

1年後、新規採用職員以上に、新規採用職員インストラクターの資質・能力の向上が図られていることを期待しています。